

1 学校教育目標
本校の教育綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた、社会に貢献できる人材の育成を図る。 教育スローガン「磨き 鍛えん 青春の志高く」

2 本年度の重点目標
熊本県教育委員会から示された「令和3年度(2021年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努める。 (1) 授業改革・確かな学力の育成 (2) 生徒指導の徹底・基本的生活習慣の確立 (3) キャリア教育の充実・進路保障 (4) 学校行事の活性化 (5) 業務改善・生徒と向き合う時間の確保・働き方改革の推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針	学校組織の円滑な運営と活性化	職員間の円滑なコミュニケーションが図られるとともに、学校の課題が共有され、課題解決に向けた共通実践が行われている状態	①管理職への報告・連絡・相談が適切に行われるとともに、管理職から職員への目配り・気配り・声かけ等を行う。 ②課題解決のため、情報の共有を図り、対応策について検討する。	B	①本年度の重点目標達成に向けて、日頃から職員が連携し、各担当業務の進捗状況や課題に関して、必要な情報を共有しながら業務を進めることができた。 ②ICT教育を含め、新時代の学びの推進に向けて、組織的に対応する体制が整った。今後は研究を進め、共通実践力を高める必要がある。
	魅力ある学校づくり	魅力化と情報発信	学校に対する高い信頼が寄せられた状態	①学校の教育活動や生徒の活躍等について、ホームページ等を活用し積極的に情報発信する。 ②個(一人一人)を大切に、生徒が誇りを抱く教育活動を展開する。	A	①ホームページを閲覧しやすく整理し、新聞・地域情報誌、各種通信等を通して、本校の教育活動について発信することができた。また学校紹介動画のYouTube配信やオープンスクールのチラシ配布等を新たに行い、入学志願者の増加を図った。 ②生徒たち1人1人を大切に、可能性を広げる学びの場として、地域と連携した教育活動を行い、定通総

						体の全国大会出場の際には保護者だけでなく地域の方々からも多くの御支援をいただくことができた。
	業務改善 働き方改革	生徒と向き合う時間を確保するための工夫	校務の削減や効率化が進み、職員の時間外勤務時間が、法令で定められた上限の範囲内となった状態	①ICTを活用したデータの共有化等により、業務の効率化を進める。 ②職員の時間外勤務の状況等について検討を加え、業務改善や業務分担を進める。	A	①連絡会や会議・研修等でICT機器を活用し、業務の効率化とペーパーレス化を推進してきた。昨年11月には「学校情報化優良校」に認定された。今後さらに1人1台端末を活用し、校務の情報化を進める必要がある。 ②職員の時間外勤務の状況については、毎月の衛生委員会で情報共有し対策について検討した。業務改善を進めた結果、定時制職員の時間外勤務時間は、昨年度と比べ減少している。
学力向上	授業改革	授業の改善	生徒が意欲を持って主体的に授業に参加している状態	①1人1台端末を積極的に活用し、生徒が「学びのおもしろさ」や「学ぶ意義」を感じ「達成感」を味わう魅力ある授業づくりに取り組む。 ②ICTの活用等、テーマを絞った研究授業と合評会を実施し、授業の改善に取り組む。	A	①1人1台端末を活用した地歴・情報のコラボ授業や探究活動における人吉UD化観光マップ作成を行った。公開授業週間では、全体的に「本時の授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活の中で生かすことはできますか。」という質問への回答で改善が見られた。 ②「1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」をテーマとした公開授業週間を実施し、ICT活用力の向上に励んだ。平時からもICT活用に積極

						的に取組み、その成果が認められ、学校情報化優良校に認定された。
	確かな学力の育成	個に応じた学習指導	生徒一人ひとりの学習面における課題や習熟状況を把握し、個に応じた学習指導がなされている状態	①長期休業期間に生徒の習熟実態に応じた「オーダーメイド学習課題」を課し、生徒一人ひとりの基礎学力向上を図る。 ②生徒情報連絡会で、生徒一人ひとりの学習面における特徴を共有し、教育活動の改善に繋げる。	B	①長期休業期間は「オーダーメイド学習課題」を課して生徒の基礎学力向上を図った。教科によっては1人1台端末を介した課題の添削指導等を行うなど、個に応じた指導を行った。 ②定期考査後の各教科担当者からの気づきは全体で共有するよう努めた。平時の学習面の情報共有は改善の余地がある。
		指導と評価の一体化	学習評価の在り方について工夫・改善がみられる状態	①観点別評価やポートフォリオ評価について研究を進める。 ②シラバス帳の活用を通して単元や内容のまとめりごとの評価方法を研究する。 ③個に応じた適切な評価の在り方を研究し実践する。	B	①新学習指導要領に合わせた観点別評価の体制を整備し、五木分校との合同研修では学習評価に関する全体研修や教科ごとの協議を行い、観点別評価についての研究を進めた。 ②学年ごとにシラバス帳を作成し、見通しを持った教育活動の展開に努めた。次年度は1人1台端末整備に伴い、シラバスデータを共有する形を目指す予定である。 ③教科によって定期考査後の答案返却時に生徒との面談を実施し、現状の観点別評価や評定の根拠について伝えるなど、これまでの学習の振り返りやこれからの学習の目標設定に活用している様子が見られた。

キャリア教育 (進路指導)	キャリア 発達	基礎的・汎用的 能力の育成	年次に応じた 将来展望と実 現に向けて、 一丸となって 努力がなされ ている状態	キャリア・パス ポートを活用 し、生徒が目標 に向かう態度を 支える。また、 インターシッ プや企業見学な どを実施し、生 徒が自己の適性 等を知る機会や 職業観や勤労観 を育む機会を設 ける。	B	キャリア・パス ポートを学校行事 の前後で活用した ことで、目標を持 って行動することが でき、事後の振り 返りも充実するこ とができた。企業 見学等は、コロナ の感染状況と日程 の都合上実施でき なかつた。ただ、 就労者は昨年度よ り増加し、勤労観 などを育む機会が あった生徒もい た。次年度へ向け ては、オンライン での開催案も考え ていく予定であ る。
		探究活動の充実	地域の協力を 得ながら地域 活性化に向け た探究活動を 推進する状態	①観光協会と連 携を図り、人吉 球磨の地域活 性をテーマとし た探究活動を行 う。 ②他の機関と連 携して探究活動 の成果を発表す る機会を設ける。	A	①6月に生徒会役 員との交流会、7 月に全体への講演 会を実施した。そ の後も観光協会か らのアドバイスを いただきながら 「UD化観光マッ プ」というコンセ プトが確立し、1 0月からの探究活 動の開始を迎える ことができた。 ②新型コロナウイルス 感染症の影響 で日程調整が上手 くいかなかった が、熊日新聞や人 吉新聞に取材に 来ていただき、探 究活動の様子を外 部に発信するこ とができた。2月 に校内での探究活 動の成果発表会を 計画中である。今 後は作成したUD 化観光マップをど のようにして発信 していくについて 検討していく必要 がある。
	進路目標 の達成	進路保障	①生徒一人一 人が、進路実 現に必要な力 が向上してい	①生徒の適性等 を踏まえ、進路 に関する情報の 提供を行った	B	①進路希望別に個 別の学習指導を行 い、進路実現に繋 げることができ

			る状態 ②卒業予定生徒の進路が100%決定した状態	り、個別の学習指導等を行った りする。 ②進路検討会議を設け、生徒一人一人の状況を把握し、必要な手立てを講じる。		た。今後は、特に進学希望者には早い時期から個別に学習指導を行い、模擬試験の受験を促すなど細やかな指導を行う必要がある。 ②進路検討会議を実施したり、2回の進路主事面談を実施したりしたことで、生徒の進路希望について全職員で情報共有でき、生徒への指導ができた。卒業予定生徒のうち、85%の進路が決定している。
生徒指導	個性の伸長	生徒理解の深化	生徒の特性や能力（可能性）などが把握され、尊重された状態	①あらゆる機会を捉えて生徒の特性や能力等を見いだすことに努める。 ②生徒情報の交換・共有の機会を年間を通じて設け、生徒の可能性を伸ばす手立てを講じる。	A	①新型コロナ対策をしながらではあったが、人定祭、生徒会行事など生徒の個性を発揮できる場を設定することができた。 ②共有した生徒情報を生徒指導に役立てることができた。
	自己指導能力の育成	自己肯定感の高揚	生徒の自己肯定感が高まった状態	①生徒のよさを見だし、認め、褒め、励ます教育実践に努める。 ②一人ひとりの生徒に応じて適切な課題を設定し、スモールステップで課題を乗り越えさせ、数多くの成功体験を積ませる。	B	①多くの生徒が自己肯定感が高まったと感じているが、若干名、自己肯定感が高まっていない生徒がいる。 ②試行錯誤しながらではあるがICT機器等を活用して生徒一人一人に対応した課題を設定できた。
		自己決定力の育成	生徒が自己実現に向けて前進している状態	①様々な教育活動の場面で、生徒に選択させる機会を設ける。 ②生徒が主体的に生徒会活動を行うことができるように支援する。	B	①生徒会行事などで生徒に選択させる場面を設定できた。 ②毎週の生徒会役員会及びGoogleClassroomを活用することで、生徒の意見を取り入れながら行事の企画・運営等が行えた。

<p>人権教育の推進</p>	<p>人権を尊重する意識の高揚</p>	<p>教科指導・HR指導における取組の推進</p>	<p>生徒が、自分が大事にされていることを実感し、周囲への信頼を通して人権を尊重し合える学校づくりを行っている状態</p>	<p>①生徒一人一人が人権享有主体である事を認識し、生徒の人格的尊厳を損なわない指導を心がける。 ②授業を真理・真実に向かう場とし、偏見にとらわれない科学的認識を獲得できるよう、教育実践交流を行う。 ③「人権だより」の発行等により人権に対する理解を深める。</p>	<p>B</p>	<p>①人権尊重の観点を大切にしながら教育活動を展開することができた。生徒情報連絡等を通して、生徒一人一人の置かれている状況を把握し共通理解を図ることができた。 ②各教科の指導においても人権尊重の精神を貫き、生徒の科学的認識の獲得を目指した実践が行われた。職員研修や公開授業後の研究会での交流によって理論的に深めることもできた。 ③「人権だより」という形でなかったが、「生徒指導便り」や「人定便り」、「安全・安心メール」等の記事やお知らせを通じ、生徒及び保護者に対する人権啓発を行なうことができた。</p>
	<p>「命を大切にすることを育む」指導</p>	<p>生命を尊重する意識の高揚</p>	<p>生命を大切にする意識や行動を育んだ状態</p>	<p>①それぞれの授業やHRのなかで、命のつながりや尊さに触れ、かけがいのないものであるという意識を育てる。 ②健康教育や防災教育などの取組に併せて命を守る意識付けを図る。</p>	<p>B</p>	<p>①各教科やHRなどにおいても機会あるごとに命の尊さについて触れた。心のきずなを深めるLHRでは、命を守るSO Sサインを伝える練習も行なった。 ②健康教育や防災教育において、命の大切さを認識させるとともに、実地で命を守る術として、災害時の避難方法や救急救命法についての訓練を実施した。</p>

いじめの防止等	いじめの早期発見	いじめの認知と対処	いじめを早期、適切に認知し、対処した状態	①日常的な生徒観察と定期的な生徒情報の交換・共有とともに、アンケート等を活用していじめの早期発見につなげ、いじめられている生徒を守る。 ②万一、いじめ事案が発覚した場合は、基本方針に沿って迅速に対応する。	A	①人権アンケートや心のアンケートの結果を活用して各部署の面談を行った。また、心配な生徒をSCにつなげたりすることで、心のケアを行うことができた。さらに、SCを混じえた「いじめ問題対策委員会」を開き、いじめに対しての認定をすることができた。 ②いじめは認定されなかった。
	いじめの未然防止	望ましい人間関係づくり	生徒が、いじめは重大な人権侵害であり許されないという認識を持ち、互いを思いやれる雰囲気醸成した状態。	①生徒会による「いじめゼロ宣言」など、生徒が人権の主体になれるような自治活動を支援する。 ②SNSの使い方など情報モラル啓発資料を配付し、思いやりや互いを尊重する心を育む学習を行う。	A	①生徒会の話し合いにより「いじめゼロ宣言」に生徒の意見を反映することができた。また、生徒会行事の企画のための会議を数回開いたことにより、縦のつながりができつつある。 ②啓発資料の教室掲示や、授業等でSNSや情報モラルについて取り上げて、啓発活動を行った。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	社会に開かれた学校づくり	総合型コミュニティスクールの推進	総合型CSとして教育目標等が地域と共有された状態	①総合的な探究／学習の時間における探究活動において、連携体制を整備する。 ②学校運営協議会を通じて、学校に対するニーズや課題等を把握する。 ③各種教育活動の実施の案内や各種学校便りの発行及びHP掲載を通して情報発信を行う。	B	①探究活動の校外学習において、地域の方々への理解と協力を得ることができた。学習内容により、どのように地域の方々とのつながりを持つかが課題である。 ②ニーズや課題を把握し、教育活動に生かすことができた。 ③月1回の各種学校便りの発行や、HP掲載での発信を行うことができた。本校の教育活動への理解が更に深まることを目指して、より一層の充実を図る予定である。

		保護者との連携	保護者が活発に学校行事等へ参加している状態	①年間スケジュールを見通して、保護者への行事参加の呼びかけをできるだけ早く行う。 ②学級通信等を活用し、保護者への情報提供を密に行う。	B	①各部署において行事や講演会などの保護者への参加の呼びかけを行った。参加希望はあったが、コロナ禍で参加していただく機会が減り、参加者数も減少した。 ②電話等での情報提供は密に行われている。1人1台端末の整備により学級への連絡等はGoogleClassroomの活用が進んだ。
--	--	---------	-----------------------	--	---	--

4 学校関係者評価

(1) 学校経営について（「働き方改革」への取組も含む）

- ・動画配信など、情報発信力が高いと評価します。
- ・時間外勤務の減少など、情報化の成果が見えています。
- ・働き方改革について、職員の評価が高いのはよいと思います。
- ・働き方改革への取組が進められ、職員の時間外勤務時間が削減できたことは素晴らしいと思います。
- ・コロナ禍の中、どのような形で授業を行われているのか存じ上げませんが、工夫を凝らし経営されていることと思います。
- ・生徒数も少ないので、生徒・職員・保護者が一体となって、地域からの応援を得て「まとまりのある学校経営」が求められる。

(2) 学力向上について

- ・学ぶ意欲が感じられます。観光マップに独自の視点を入れ、言葉に表現し、子供たちの意欲を引き出しています。
- ・ICTを活用したわかりやすい授業が行われているようです。引き続き一人一人の学力向上のために、よろしくお願いします。
- ・端末の活用を引き続きお願いします。
- ・個に応じた授業が良い評価ですので、一人一人に手が届いていると思います。
- ・授業は楽しい雰囲気の中で「わかる授業」の実施を期待します。
- ・ICT活用の授業は、生徒たちの興味もあって効果的だと思います。
- ・授業参観をさせていただきましたが、ICTの活用を図りながら、一人一人を大切にしたい授業展開がなされていました。学び方などに課題のある生徒もいるかと思われますので、今後も個に応じた指導をさらに大切にしていきたいと思います。

(3) キャリア教育（進路指導について）

- ・「UD観光マップ」は他にない素晴らしい取組だと思います。
- ・「UD観光マップ」作成に関しては、横の連携や地域への溶け込みが積極的に行われ、その結果、皆さんに役立つものが作り上げられてよかったと思います。引き続きこのような活動をよろしくお願いします。何か協力できることがあればやっていきたいです。
- ・企業見学ができなかったのは残念ですが、オンライン就活よろしくお願いします。
- ・観光マップの学びは、今後の発信までが大事です。期待しています。
- ・生徒の個々の適性を見極めて、希望の進路を実現させることを期待します。
- ・適切になされています。探究活動の充実がうかがえました。

(4) 生徒指導について

- ・いろいろな事情を持った子供たちなので、これからも一人一人に寄り添ってください。
- ・自己肯定感に課題の見られる生徒もいるようですので、個に応じた細やかな対応を継続してお願いします。
- ・生徒たちが学校行事等に積極的に参加し、活動できる指導に期待する。

(5) 人権教育の推進について

- ・生徒、職員ともに評価が高く充実していると感じます。
 - ・総務省ホームページに「鷹の爪団の#NoHeartNoSNS大作戦」という啓発動画が出ていました。生徒の端末にこのようなものを紹介すると、手軽に見ることができるのではないのでしょうか。鷹の爪団とコラボした啓発は、選挙など色々あります。人権を学ぶというと、概念が自分ごとにしにくいです。観光マップ作成により、守られる権利は、というような関連づけをしてみてくださいはどうか。
 - ・相手を尊重し思いやりを持って行動する指導。命を大切に、お互いに助け合う心を育てる。
- (6) いじめの防止等について
- ・生徒にしっかり寄り添った対応がなされていることと思います。
 - ・生徒・教師とも意識が高いことがうかがえます。
 - ・担任の先生がクラスの生徒をよく観察し、変化に気づいたら保護者と連携しながら面談する。
 - ・適切な取組がなされていると思います。
- (7) 地域連携（コミュニティー・スクールなど）について
- ・ウィズコロナ、アフターコロナの秀麗会活動を考える時期です。保護者は3年間しかいないので、新しいことの検討は難しいですが。町内会等、様々な団体が活動見直しをしています。
 - ・ボランティア活動や他との交流を通して、広く地域と触れ合い、人間的成長をはかる。
- (8) その他
- ・「卓球部の全国大会出場」や「観光マップ作成」など、新聞で報じられ、人高定時制の存在感を示していることは嬉しいことである。
 - ・とにかく地域や周囲からの「信頼」を得ることが大切。
 - ・学校情報化優良校おめでとうございます。今年度の定時制を見ていると生徒の主体性を尊重した活動はとてもいいと思います。また部活動やUD観光マップなど地域活動においても、心から「いいね」と思え、この子たちがつくる地域の未来に期待したくなります。学校評価アンケートでも学校と距離を置いた生徒や保護者もなくホッとしました。新しい定時制の歴史が刻まれているような気がします。生徒さんの頑張り先生方の指導に心より敬意を表します。
 - ・生徒・保護者の考え方、状況が多様化する中で、定時制高校の持つ役割は今後ますます重要なものになると思われます。どうぞよろしくお願ひします。

5 総合評価

学校教育目標については、本校の教育綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた、社会に貢献できる人材の育成を目指すことができた。

本年度の重点目標については、熊本県教育委員会から示された「令和3年度（2021年度）県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努めた。（1）授業改革・確かな学力の育成（2）生徒指導の徹底・基本的生活習慣の確立（3）キャリア教育の充実・進路保障（4）学校行事の活性化（5）業務改善・生徒と向き合う時間の確保・働き方改革の推進

学校運営協議会委員の方々からは、本校の教育活動について高い評価と激励の言葉をいただくことができた。定時制の高校として、スクール・ミッションやスクール・ポリシーの策定を通して再確認できた特色や強みを生かしながら、今後も地域と連携した教育活動等を通して、地域からの期待に応える教育活動の実践を目指すつもりである。

（1）学校経営について（「働き方改革」への取組も含む）

働き方改革については、職員の時間外勤務時間を昨年度と比べ削減できた。魅力化と情報発信については、全職員で取り組むことができ、保護者のほとんどから評価が高かった。ホームページや安心安全メール、Google Classroom等を活用することができた。

（2）学力向上について

学校評価アンケートでは「ICTの活用等、わかりやすい授業の工夫がされ、意欲的・主体的に参加できる授業が行われている」という項目で、職員・生徒・保護者のすべてが「よく当てはまる」か「当てはまる」と回答しており、ICT活用が進んだ結果といえる。「授業がわからない」と回答している生徒はいなかった。

（3）キャリア教育（進路指導について）

進路保障については、今後は早い時期から個別に学習指導を行い、模擬試験や資格試験の受験を促すなど細やかな指導を行う必要がある。学校評価アンケートでは「総合的な学習/探究の時

間における地域理解研修等、地域と連携した探究活動が行われている。」という項目で、生徒の90%以上が「よく当てはまる」か「当てはまる」と回答している。今年度の探究活動では「UD観光マップ作成」の取組を充実させることができ、地域と連携し、学校全体で取り組むことができた。

(4) 生徒指導について

学校評価アンケートでは生徒の80%が「学校行事において、主体的に行動し、活発な活動ができています」と回答していた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、教育活動が大きく制限されたが、生徒の主体的な活動の機会を確保するよう努めた。

(5) 人権教育の推進について

学校評価アンケートでは、職員・生徒・保護者のほとんどが「人権教育の視点に立った講演会や特設LHR等、人権尊重の意識を育む教育活動が行われている。」と回答していた。多様な学びの場として、生徒ひとりひとりを大切にする教育活動を継続する必要がある。

(6) いじめの防止等について

学校評価アンケートでは、職員・生徒・保護者のほとんどが「生徒の悩み事に対して親身になった教育相談がなされ、いじめの未然防止と早期発見に向けた取組が行われている」と回答していた。各種面談を充実させており、週1回の生徒情報連絡会を通して情報を共有することができた。

(7) 地域連携（コミュニティー・スクールなど）について

多くの行事が、コロナ禍による制限を受けたが、全国大会出場や探究活動等を通して、保護者や地域の方々の理解と協力を得ることができた。夜間の防災避難訓練等、定時制の現状に応じた取組を実施することができた。

(8) その他

ICT特定推進校として、学校の情報化を推進し、令和3年11月には定時制課程としては県内初の学校情報化優良校に認定された。新時代の学びの推進に向けて、組織的に対応する体制が整った。定時制の教育活動について積極的に情報発信したことにより、保護者だけでなく地域の方々からも多くの御支援をいただくことができた。

6 次年度への課題・改善方策

【課題】 スクール・ミッション、スクール・ポリシーの共有

【改善方策】 人吉球磨地区で唯一の定時制高校として、スクール・ミッションに示された本校の存在意義、地域社会から期待される社会的役割、目指すべき本校像等について、全職員で再確認し教育活動を実施する。また、スクール・ポリシーが校内外で共有された状態を目指す。

【課題】 ICT特定推進校としての取組の深化

【改善方策】 ICT特定推進校として特色あるICT活用を推進し、今年度の探究活動で取り組んだ地域の復旧・復興に向けたUD観光マップ作成等、地域と連携した取組を今後も継続し、魅力ある学校づくりを目指す。

【課題】 確かな学力の育成と進路指導体制の構築

【改善方策】 生徒一人ひとりの進路希望達成に向けて、学習面における課題や習熟状況を日頃から把握し、計画的に模擬試験や資格試験等を取り入れながら、個に応じた学習指導のより一層の充実を目指す。

【課題】 新型コロナウイルス感染拡大防止に係る学びの保障

【改善方策】 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校行事の中止や縮小が続いているが、「個（一人一人）を大切にし可能性を広げる学びの場」として、生徒の主体的な活動の機会をできるだけ確保できる状態を目指す。